鹿児島中央看護専門学校3年課程看護科　令和6年度学校自己点検・自己評価結果

（　4：とても良い　3：概ね良い　2：不十分　1：全くできていない　）

評価項目		令和 6 年度
大項目	中項目	
教育理念・目標	1_教育理念・教育目的・卒業生像に一貫性があるか	3.38
	2_教育理念・教育目的は、学校における看護基礎教育の特徴を明確にしているか	
	3_社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想があるか	
	4_教育理念・教育目的・卒業生像・学校の特徴等は、学生・保護者・関係施設等に周知されているか	
学校運営	5_教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.28
	6_運営方針に沿った事業計画が立案されているか	
	7_運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	
	8_人事、給与に関する制度は、整備されているか	
	9_教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
	10_関連施設や地域社会等のニーズに対応する体制が整備されているか	
	11_教育活動に関する情報公開が適切になされているか	
	12_情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
教育活動	13_教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.45
	14_教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
	15_学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
	16_実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	
	17_実践的な看護教育演習・臨地実習等_が体系的に位置づけられているか	
	18_授業評価の実施・評価体制はあるか	
	19_成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	
	20_カリキュラムの見直しは定期的に行っているか	
	21_臨地実習の計画・実習指導の見直しは定期的に行っているか	
	22_年度初めにカリキュラムガイダンスを行っているか	
	23_学生便覧は内容構成は工夫して作成されているか	
	24_学生便覧は学生が活用しているか	
	25_シラバスが作成され、学生に説明しているか	
	26_科目に合わせて、専門性を発揮できるように担当教員専任・非常勤_を配置しているか	
	27_教員の講義時間の配分は経験年数・授業内容を考慮したものになっているか	
	28_資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
	29_看護基礎教育の授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
	30_看護基礎教育に適した教員専任・非常勤を含む_を確保するためのマネジメントが行われているか	
	31_教職員の指導力育成や能力開発などのための取り組み等が行われているか	
学修成果	32_国家試験合格率の向上が図られているか	3.20
	33_退学率・休学率の低減への取り組みをしているか	
	34_卒業生の活躍及び評価を把握しているか	
	35_卒業生の活動状況を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	

評価項目		令和 6 年度
大項目	中項目	
学生支援	36_進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.22
	37_学生相談に関する体制は整備されているか	
	38_学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	
	39_学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
	40_課外活動に対する支援体制は整備されているか	
	41_学生の学習環境への支援は行われているか	
	42_保護者と適切に連携しているか	
	43_卒業生への支援体制はあるか	
教育環境	44_施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.28
	45_防災に対する体制は整備されているか	
	46_臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか	
	47_臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしているか	
	48_臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしているか	
	49_臨地実習指導者と教員の協働体制を整えているか	
学生の受け入れ	50_入学選考試験の種類をわかりやすく明示しているか	3.41
	51_入学者選抜の方法は明確になっているか	
	52_学生募集の広報には志願者の知りたい情報を網羅しているか。	
	53_志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされているか	
	54_選抜方法と学生の状況について検討しているか	
財務	55_教職員は学校がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解しているか	3.23
	56_教職員はそれぞれの観点から財政について考え行動しているか	
法令等の遵守	57_法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.62
	58_個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
	59_自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	
	60_自己評価結果を公開しているか	
社会貢献・地域貢献	61_学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.31
	62_学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	
	63_地域ニーズに適正かつ継続的に貢献しているか	
国際交流	64_国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	3.24
	65_国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えているか	
	66_海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えているか	
研究・研修活動	67_教員は研究活動に取り組んでいるか	3.38
	68_教員の研究活動を支援する体制があるか	
	69_教員は年一回以上研修に参加しているか	
	70_研修で学んだことを教育に還元し活用しているか	
平均		3.33

各カテゴリー評価

（1）教育理念・目標　評価（3.38）　R5から0.02上昇　概ね適切

- 令和4年度から適用している新教育課程では、当法人の理念を基盤に、本校では約60年紡がれてきた「奨学と慈愛」を大事にしてきている。新カリキュラムにおいてもこの慈愛の心を基盤とした8つのディプロマポリシーに向かって、一貫した教育目標を設定し教育課程を編成している。令和6年度は、全学年新カリキュラム運用となり教員間でベクトルを合わせ教育活動に反映できるようにした。また、周知においては学生便覧掲載に合わせ、入学時説明等を通して保護者への理解を得ている。学年進級時、オープンキャンパス等を通して周知しており、少しずつ本校の教育理念が浸透してきている。
- 社会のニーズをふまえた学校の将来構想においては、高校生減少、看護基礎教育の大学化の流れの中、学生確保が困難となってきている。令和6年度は、学校在り方検討会を発足し、少子化の中で選ばれる学校となるために、留学生受け入れや奨学金制度の拡充などを検討した。しかし、学校の在り方については継続し検討を必要としている現状にある。

（2）学校運営　評価（3.28）　R5から0.14低下　概ね適切

- 学校運営については、本校は公益財団法人慈愛会の中の一施設として健全に運営されている。事業計画は、法人の方針、学校関係者評価会で頂く委員の皆様の意見や学校事業計画のPDCAに基づき、計画を立て展開している。また進捗を職員会議で報告し共有している。
- 人事、給与に関する制度は、本年度改定があったため制度についての理解が不足している職員もいる。ラダー取得後の手当に関しては、本校の強みである。教員ラダー導入から5年が経過し本年度ラダーの内容の見直しを行っている。教育実践能力を高めていくには、教員しての核となる資質が問われる。今回の改正では、教員としての資質を大事にして教育実践能力を高めていけるよう工夫する。内容を全員で共通理解し、ラダー取得に向けた意識の向上につなげる必要がある。
- 教育活動に関する情報公開に関して、本年度は学校広報委員会を立ち上げ、ホームページの工夫やSNSの開設に取り組んだ。広報の浸透には課題があるものの一定の成果を上げていると考える。
- また、令和4年度から教務事務の配置により、教員の事務的業務のタスクシフトが定着してきている。本年度はその取り組みと成果をミドルマネジメント研修（慈愛会内研修）で発表した。

（3）教育活動　評価（3.45）　R5から0.03上昇　概ね適切

- 教育課程の編成においては、カリキュラムポリシーに沿ってカリキュラムマップに各科目の関連性やディプロマポリシー到達に向けての学年ごとの科目や実習との関連性を示している。学生や実習指導者とも共有し教育を実施している。また、学年ルーブリックを活用し、目標の達成状況を評価している。学年ガイダンスや個人の目標に繋げ、学生の主体性を導いている。本年度は、カリキュラム検討員会で3年間の教育内容の評価を行い、不足の内容について検討した。
- 令和6年度は、専任教員数(12名、副校長除く)全員有資格者、実習指導教員2名と充足し、教育活動にあたっている。各教員の強みを活かし授業を担当。各教員の年間授業時数は60～98時間となっており100時間を超える者はいない。
- 教育活動の工夫においては、令和 6 年度も実践的な教育として実習でのポートフォリオ学習、災害看護演習、模擬患者を活用した統合看護技術Ⅰ、臨床判断Ⅱ、フィジカルアセスメントⅡ、統合看護技術Ⅱでは、シミュレーション学習を行い、その都度評価しながら次年度に繋がる課題を見出している。
- さらに、各教員の担当講義のねらいや授業方法、演習の工夫点などの学習会を開催し、他の教員の取り組みの共有がはかれている。この取り組みはビジョンをそろえ教育の質を上げることにつながっている。
- 授業評価においては、導入後3年が経過し外部講師含め全教員で取り組んでいる。6年度は学生の負担を減らすことも考え、評価内容の改善を行い終講後すぐに入力を依頼している。回収率も上昇し、各授業の改善に繋げている。

・　臨地実習においては、看護の統合と実践実習Ⅰを3年次5月の最初に実習を設定し、臨床看護師の臨床判断を学ぶシャドー実習、医療安全、入退院支援実習を行い、次からの領域実習に活かせるように配置した。また、倫理カンファレンスの取り組みは定着してきている。

・　また、地域や島しょ医療への関心を広げるための体験学習を1年次に配置し、学生は地域住民とふれ、そこに暮らす人々の生活に広く関心を高めていた。また、本校の特徴である慈愛会主催の慈愛会学会や慈愛のこころを紡ぐ会の発表参加は、慈愛のこころを築く機会となっている。

（4）学習成果　評価（3.20）　R5から0.08低下　概ね適切

・　本年度、R5の評価から低下した小項目の中に、国家試験合格率の向上への取り組みと休退学の低減への取り組みがあった。国家試験合格率は、昨年度97.6％であり全員合格が厳しかった。国家試験対策は、3年間支援パスを活用してきているが、低学力の学生も増えつつあり、学生の傾向等も考え支援していくことが必要である。また、学年ごとの国家試験対策の実施を充実させることが全員合格の鍵となる。休学者は本年度、科目の再履修者を含め3名～5名で推移した。年度末で2名が退学となった。健康の課題を抱える学生の休学後の復学支援は難しい側面もある。なるべく、休学に至らないような学生支援が必要であり、学年担当を中心に早期に学生の課題に気づき、面談やカウンセリング等につないでいくことが重要である。

・　R5年度は、卒業生の活躍や評価がなされていないことが課題であったため、本年度、過去3年間に外部施設に就職した卒業生の状況を把握するため、目指す卒業生像と照らして4段階で各施設の管理者へ回答を求めた。調査結果では、「**看護師としての品行に気を付け、挨拶や身だしなみを整える行動が身に付いている**」3.18「**相手を思いやり相手の立場になって関わることができている**」「**良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力が身に付いている**」ともに2.91と高かった。低かった項目として、「**専門職者としての倫理観が身に付いている**」「**看護チームの一員としてチーム内での報告・連絡・相談ができている**」**の項目で、ともに2.45であった。**「倫理観」「報告・連絡・相談」は、本校が最も大切に教育してきたところであるため、本校の卒業生の課題が明らかとなり教員の想いとのずれもわかった。患者・家族にとっての最善は何かを常に考え行動することで善悪の判断が身につけられるよう、実習だけでなく日常生活から意識していけるように働きかけていきたい。

（5）学生支援　評価（3.22）　R5から0.09低下　概ね適切

・　令和6年度は、進路・就職に関する支援担当教員をおき就職に関する広報、面談指導等対応した。

・　学生の経済的支援では、慈愛会奨学金制度を含め、社会人向け専門実践教育訓練給付金制度の活用、日本学生支援機構等の定期的に情報を提供し支援した。さらに、放送大学で学ぶ学生むけに節英会奨学金もあり、多くの学生の支援に繋げている

・　放送大学との併修制度は導入3年目となった。全学年で27名が併修制度で学んでおり学生の看護学士や学士取得支援に繋げてきている。今後は、在学中の支援を継続しながら、卒業生に向けての支援を就職先とも連携をはかり進めていく。

・　また、令和6年度からハラスメント防止に向け、規定の運用を行った。年度においてハラスメント事案は発生しなかった。教員間では「教職員の倫理行動指針第1版」の活用と「教職員の心得え」を遵守できるよう対応について共有し学生を支援してきている。

・　卒業生サポートにおいては、本年度で3年目となり1年目と3年目サポートキャンパスを開催し、互いの悩みや現在の想いなどを共有し、仕事への目標が見出せるよう支援を行っている。

・　しかし、課外活動への支援体制の整備（2.9）や学生の学習環境への支援が行われているか（2.7）は低値となっており、課題が残っている。特に、学校環境（ハード面）校舎の老朽化と狭さ、図書室の利用のしづらさ、課外活動の場所などは改善が難しい。令和7年度も継続して少しでも学生にとって学びやすい環境の整備を検討する。

（6）教育環境　評価（3.28）　R5から0.07低下　概ね適切

- 上記でも考察したが、図書室の活用について学生の利用は少ない。校舎が離れていることもあり、貸出の多い書籍や新刊図書を第1校舎に置くなど工夫している。また、多機能モデルを購入しシミュレーション室を充実させてきたが、授業や実習前の活用以外、学生の活用は少なく課題である。学生の主体的な活用ができるようにすること、また教員だれもがシミュレーションモデル等の活用ができるよう取り組んでいく。令和7年度は、さらにDX推進チームを立ち上げDX人材の育成及び教育環境の向上をはかる。
- 臨地実習においては本校の実習は慈愛会関連施設において実習が可能となっており、卒業生も多く学びやすい環境である。年2回の実習指導者会議や研修、看護管理者協議会等で、本校の実習要項や学習内容、指導方法を共有して学生を支援している。また、調整も可能であり会議や講義などの時は臨地の指導者に依頼できるメリットがある。
- 防災および安全管理においては、安全管理委員会を設置し2カ月に1回会議を開催し検討している。感染管理に関すること、クレーム等も含めて検討している。災害対応に関して規程のマニュアルで対応しているが、近年日本各地、世界各地で起こる大規模災害を想定した事業継続計画（BCP）に関して早急な仕組みづくりが必要である。令和7年度は、BCPの策定、地震を想定した訓練を予定する。
- 令和4年度から本校は鹿児島市と「災害における妊産婦福祉避難所」の協力施設となっており、実習室を提供する。

（7）学生の受入れ　評価（3.41）　R5から0.03低下　概ね適切

- 入学選考試験に関する規程に沿い学生募集、入学選抜を行っている。令和7年度からの外国人留学生受け入れに関して、実際の受け入れ校からの情報収集や県への相談、出願基準の検討、募集要項の整備や日本語学校等の訪問、入学志願者との面談などを行ってきた。令和7年度は担当教員を配置し支援していく予定である。
- 少子化、大学化の流れの中、受験者数は低下しており、合格率は上昇している。令和5年度から二次・三次募集を開始したが、推薦・一次の募集に力を入れていく必要がある。
- 学生の定員確保が難しくなる中、SNSを活用した情報発信や学校周知活動として学校訪問の継続、社会人獲得にむけ病院訪問等も実施していく。

（8）財務　評価（3.23）　R5から0.05上昇　概ね適切

- 教職員は学校の財務状況や財政基盤を把握しているかであるが、適時に経済状況について会議等で共有している。今後も教職員が組織の一員としてマネジメントの基本である「ヒト」「モノ」「カネ」を意識して行動できるよう、情報の共有等を行っていく。本年度は財政的に厳しい状況であったが、可能な限りの節約に努めた。

（9）法令の遵守　評価（3.62）　R5から変化なし　適切

- 専修学校設置基準や看護師養成所等の運営に関するガイドラインを遵守し学校を運営している。前回の指導であった1日当たりの時間数、1週間当たりの時間数が時間越えにならないよう工夫している。学生定員に関しては3学年で124名となっており適正な学生確保に努めていく。
- 令和6年度は、留学生受け入れに関する入学選考に関する学則変更承認申請を行い承認を得た。
- 教育自己点検、自己評価結果及び学校関係者評価会の開催と公開については、学校評価実施規程(令和2年度)に則り実施。検討された内容や意見を学校運営の改善や教育活動へと繋げている。

（10）地域貢献・社会貢献　評価（3.31）　R5から0.03上昇　概ね適切

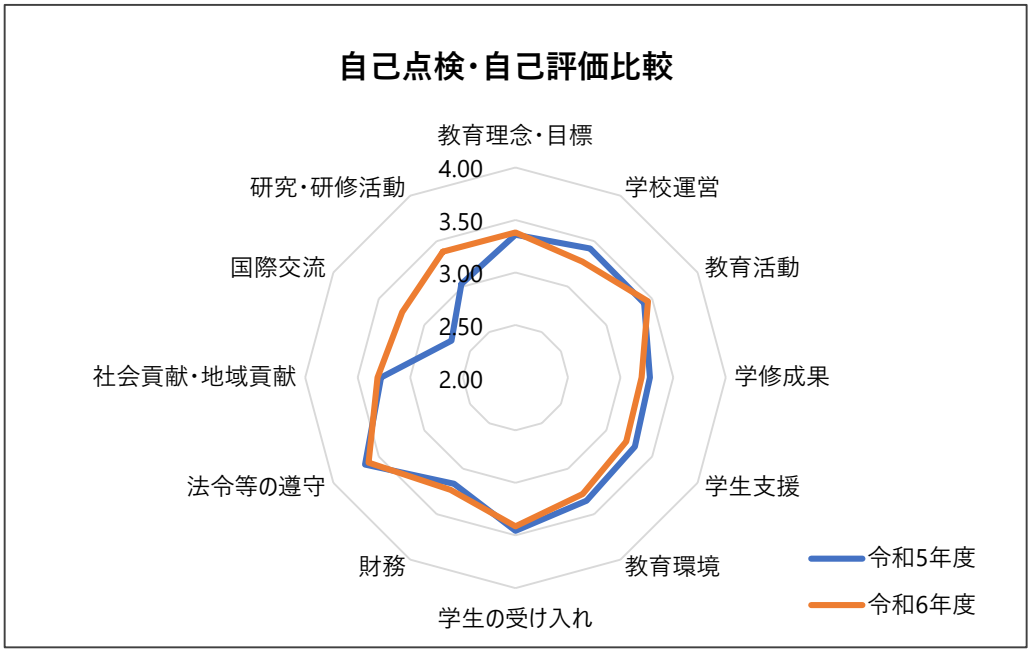
- コロナ禍が終息に向かい、学生ボランティアを再開、本年度は延べ48名の学生がボランティア活動に参加した。学生の地域活動を推奨するため本年度からボランティア表彰を計画している。また、本年度は地域清掃ボランティアとして3学年共に学

校周辺の清掃に取り組んだ。次年度は、3年生の実習期間に福祉協議会へのボランティア活動を、学生主体で計画し実施する予定である。

- 学校の貢献活動としては、鹿児島県専任教員養成研修への講師派遣及び研修生の受け入れを始め、環太平洋大学からの教育実習生の受け入れも継続した。また、慈愛会交流研修（看護教育）の受入れを行い、双方で教育を共有する機会となった。
- 令和7年度は、地域貢献として地域の病院施設の看護師や看護教員対象に教育セミナーを開催予定である。

（11）国際交流　評価（3.24）　R5から0.54上昇　概ね適切

- 国際的な視野を広げるための科目は、文化人類学、英語および看護管理・国際看護を設定しトランスナショナル化の中で日本が暮すということや国際化がもたらす文化について学んでいる。
- また、海外からの帰国学生や留学生受け入れ態勢の整備について1.9から3.3と大きく上昇した。本年度の取り組みの成果である。令和7年度から外国人留学生の受け入れにより、看護学校の在り方へも影響を与える機会となると考える。本校学生も国際交流を育む機会となり、双方に価値をもたらすと思われる。支援パスを整備し担当教員を配置していく予定である。

（12）研究・研修活動　評価（3.38）　R5から0.35上昇　概ね適切

- 教員の研究活動への取り組み、研究活動の支援体制についていずれも上昇した。令和2年度から始めたチーム活動における看護研究チーム、研究授業チームの活動が定着したものである。本年度も教員による学習会の実施、研究授業の実施、看護研究においては1例「A校学生の臨地実習における社会人基礎力の変化と属性による特徴」というテーマで慈愛会学会、日本看護学校協議会学会で発表した。今後も継続的に活動を行う。